

第9回 創薬支援ネットワーク協議会 議事概要

■日 時：平成29年6月22日(木) 10時00分～10時40分

■場 所：中央合同庁舎4号館12階 共用1214特別会議室

■出席者：

議 長：内閣官房 和泉健康・医療戦略室長

構成員：内閣府 大島国立研究開発法人日本医療研究開発機構担当室次長
(同室長代理)

文部科学省 関研究振興局長

中川大臣官房サイバーセキュリティ・政策評価審議官
(大臣官房総括審議官代理)

厚生労働省 森光医政局研究開発振興課長(神田医政局長代理)

福田大臣官房技術・国際保健総括審議官

経済産業省 保坂大臣官房審議官(産業技術環境局担当)

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 末松理事長

榎林創薬支援戦略部長

国立研究開発法人理化学研究所 後藤科学技術ハブ推進本部創薬・医療技術基
盤プログラムディレクター(松本理事代理)

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 米田理事長

国立研究開発法人産業技術総合研究所 鎌形生命工学領域研究戦略部長
(松岡理事代理)

日本製薬工業協会 畑中会長

参考人：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 竹中プログラムディレクター

■概 要：

創薬支援ネットワークの課題と対応として、事務局より3独法の創薬技術支援に対するインセンティブ(資料3-2)、AMED榎林創薬支援戦略部長より支援テーマ撤退基準への時間的視点の反映と支援テーマの外部支援としてのCRO選定の方策(資料3-3)、AMED末松理事長より創薬支援ネットワーク関連独法課題のAMSへの反映とAMED創薬支援戦略部の組織改編(資料3-3)について説明されたうえで意見交換があり、提案された内容について了承された。

1. 3独法の創薬技術支援に対するインセンティブ

- 設備や技術の高度化等におけるAMED創薬支援戦略部からの要望について3独法より下記の発言があった。

- ・ 理研：AMED創薬支援戦略部と理研の間で内容の詳細や必要性について意見交換を行い、調整して検討を進めていく。理研の方針と合致するものは進めていきたいと考えている。
- ・ 医薬健栄研：これまで築き上げてきた技術、特に全く新しいタイプの抗体の作製技術等を活用して、個々のテーマに対して積極的に協力したい。それぞれのテーマについて追加の支援があればさらなる協力ができると考えている。
- ・ 産総研：既に保有している天然物ライブラリー、構造解析や最適化等のさらなる強化に予算措置されることは非常にありがたい。天然物スクリーニングにおけるハイスループット化については、全体のシステムを持ち合わせていないため、大きな予算が必要である。

○ 事務局より、3独法に対するインセンティブにおける提案について補足の発言があった。

- ・ 必要経費を措置することに関しては、個別のテーマに関して必要な実費等の経費を措置することであり、基本的に創薬支援ネットワークの考え方を大きく変えるものではない。これまでどおりインハウス予算を最大限活用したうえで、必要な経費を措置するということも可能にしたい。

○ 平成30年度創薬支援ネットワークに必要な予算要求方針について各省より下記の発言があった。

- ・ 厚労省：創薬支援ネットワークにより創薬シーズを実用化し医療現場に届けていくことは重要であり、厚労省としても積極的に対応していきたい。今回の提案について支持したい。適切な段取りを踏んで、丁寧な議論を行い、適時適切な対応をしていただきたい。提案いただいた技術の高度化についても医薬健栄研と連携して予算要求に向けて検討していきたい。
- ・ 文科省：創薬支援ネットワークの着実な推進は重要と考えている。理研が貢献できるように、要望事項について必要性等を踏まえ理研と検討していきたい。
- ・ 経産省：創薬支援ネットワークに産総研とともに貢献していきたい。いただいた提案についてよく議論し、予算要求についても産総研と相談しながら進めたい。

○ 和泉議長より、次の発言があった。

- ・ 来年度予算の概算要求に向けて、AMEDと3独法でよく摺り合わせをして進めてほしい。

2. 支援テーマ撤退基準への時間的視点の反映

○ 特に意見はなかった。

3. 支援テーマの外部支援としてのCRO選定の方策

○ 下記の意見があった。

- ・外部機関を活用したCRO選定については、AMEDにCROに関する知識を蓄積し、適切にCROを評価する仕組みを構築できる良い取組であると思う。今後は専門分野別に推奨ベンダーのようなCROを選ぶことで、より機動的になっていくことが期待される。

4. 創薬支援ネットワーク関連独法課題のAMSへの反映

○ 和泉議長より3独法のデータベースの整備状況、及び今後の予定について質問があり、3独法より下記の発言があった。

- ・理研：研究組織単位で予算を把握していることから、研究課題のデータベース化はトータルとして行っていない。創薬医療技術基盤プログラムで推進しているテーマやプロジェクトに関しては、知財に関する情報等秘密情報を含む情報を除いて、ホームページで全てのテーマを公開している。その範囲で情報を活用していただくことは可能である。
- ・医薬健栄研：どの研究者がどういう形でファンディングを受けどういう研究を行っているかについて、研究所としてデータベース化を進めている。AMEDのデータベースと連結できる体制が作れるようであれば、積極的に参画したい。
- ・産総研：研究者間でのデータの共有はなされているが、データベースという形で公開可能な情報のプラットフォームは持っていない。AMSに合わせた形で検討していきたい。

○ 和泉議長より、次の発言があった。

- ・2000を超える採択課題を徹底して「見える化」する作業等、AMEDには高度なデータベースを準備してもらっている。AI機能を活用し、どの分野に投資すべきか示唆を与えるようなデータベースの構築をお願いしている。
- ・総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）では、データベース構築に関するノウハウが全くない。民間議員を中心に全国の大学の研究のテーマ・進捗状況・予算・人材をトップダウンで網羅する活動を始めている。それらとボトムアップ型のAMEDのデータベースが繋がると、日本全体でどのような研究が行われているかが明らかになることが期待される。
- ・健康医療分野においてAMEDのAMSをきっかけに徹底して関係機関のデータベースのネットワークができると良い。先に健康医療分野で進めることで、科学技術全般を対象としたCSTIの取組にも大きな貢献ができると考えている。

- その他、AMEDより次の発言があった。
 - ・ AMSはJSTのノウハウを取り入れているので、AMSの運用にはJSTの積極的な協力が必要である。JSTが保有する医学以外の分野にも創薬に役立つ基本技術の情報が多く存在する。企業が関わっており秘密保持義務のある情報を除き、JSTにも協力してもらって課題に含まれる内容の共有を進めたいと考えているので、健康・医療戦略室からも指示してほしい。

- 和泉議長より、次の発言があった。
 - ・ 広義の健康・医療分野に関して、AMSがどの独法のどのデータベースとネットワークを構築すべきか、そしてそのやり方等について、健康・医療戦略室が場を設定し検討を開始して欲しい。

5. AMED創薬支援戦略部の組織改編

- 下記の意見があった。
 - ・ 今回の創薬支援戦略部の組織改編によって、約260億円の「オールジャパンでの医薬品創出」プロジェクトの予算の活用方法について創薬戦略部という一つの部門の中で議論できるようになる。また、医薬品研究課からファンディングしている事業の中のテーマと創薬支援ネットワークのテーマの協力体制が構築しやすくなると期待される。

以上